

大学院 教育学研究科 学校教育専攻 主催  
2013 年度 第六期生修士論文発表会

---

日時：2014 年 2 月 21 日（金） 13：00～

場所：13403 教室

発表時間：発表 30 分 質疑応答 10 分

---

13:00～13:10

研究科長挨拶

- |   |       |       |                                 |     |
|---|-------|-------|---------------------------------|-----|
| 1 | 13:10 | 岩下紗矢香 | 故事成語を教材とした伝統的な言語文化と<br>語彙の指導の研究 | 1 頁 |
| 2 | 13:50 | 嶋田千恵  | 自分の考えを適切に表現することの研究              | 3 頁 |

14:30～14:40

【休憩】

- |   |       |      |   |     |
|---|-------|------|---|-----|
| 3 | 14:40 | 廣川 遥 | 小学校の音楽教育におけるジャズの可能性の追究                        | 5 頁 |
| 4 | 15:20 | 深川貴史 | 昭和初期の小学校における体育活動に関する研究<br>—福井県・惜陰小学校での事例を中心に— | 7 頁 |

16:00～16:10

専攻長挨拶



## 感想

今回、6期生の修士論文発表会を実施にあたって、主指導教員をはじめとした多くの方々から、温かく終始熱心なご指導をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

はじめに嶋野先生から修士論文発表会を実施できることのありがたさについてお話をいただき、発表会に臨めたことを幸せに思いました。

前年の第2次修士論文中間報告会での反省を踏まえて今回の発表をさせていただきました。先生方から多くの貴重な助言やご意見をいただいて、自己の研究に引き続き生かしていきたいと思えます。修士論文の発表では、各課題に対しての分析や実験授業を通しての考察も含めた授業の考案を中心としたものとなりました。また、文献研究を通して導き出される教育の姿勢や、それぞれの論題についての考察を発表しました。専攻長の吉田先生からは、3点お話をいただきました。1点目は自己の行った研究を学校現場に活かしていく中で自己のテーマを磨いていくこと、2点目として修士論文は院生と指導教員との共同研究であり、指導教員にご教授いただくことだけではなく院生自身が考えを深めていくことのバランスが大切なこと、3点目は発表内に課題だけではなく成果と課題をともにいれることです。吉田先生からいただいたお言葉をもとに今後も研究を行ってきたいと思います。

修士論文の発表で得たことを今後も努力していきます。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

文教大学大学院教育学研究科

6期生一同

以上